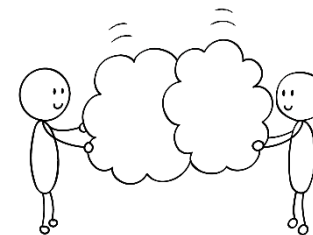
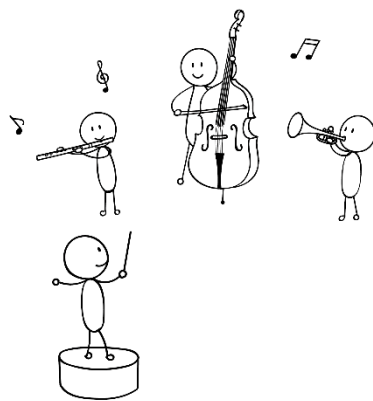
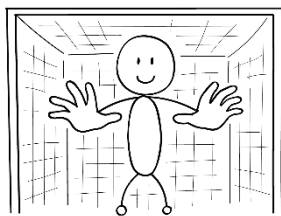


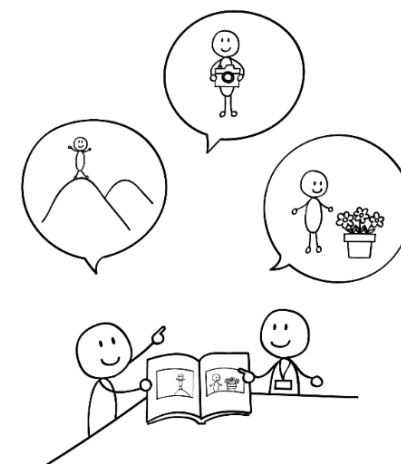
# 「パターン・ランゲージ」を活用した ソーシャルワーク実践のコツ



川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課  
角野 孝一

今回は、川崎市が令和4年度に作成した『高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ ～ともに未来をつくる～』の内容と具体的な活用方法をご紹介します。

地域や分野を問わずあらゆる対人援助業務の参考になると思いますので、ぜひご活用ください。

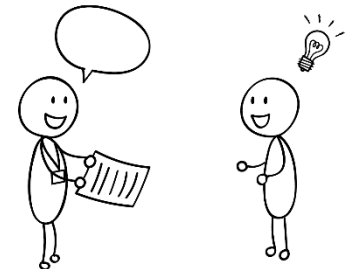


## I 基礎編

1. 川崎市の紹介
2. 「パターン・ランゲージ」作成の経緯
3. 「パターン・ランゲージ」作成のプロセス

## II 実践編

1. 冊子・カードの入手方法
2. 主な使用例の紹介



## I 基礎編

# 1. 川崎市の紹介

---





# 川崎市の特徴

## 20政令市と東京都区部から構成される21大都市間比較

「大都市データランキング カワサキをカイセキ！」から

・人口密度	10,602人/km <sup>2</sup>
・人口増加比率	0.91%
・出生率	0.88%
・自然増加比率	0.11%
・死亡率	0.76%
・平均年齢	42.8歳 (H27国勢調査)
・生産年齢人口割合	67.7% (H27国勢調査)
・老年人口割合	19.5% (H27国勢調査)
・刑法犯認知件数	4.3/1,000人
・交通事故発生件数	196.7/10万人

※東京都区部及び大阪市に次ぐ過密都市

※第2位

※第2位

※最高位

※最低位

※最低位

※最高位

※最低位

※最低位

※第20位

(元気な都市)

(若い都市)

(安全な都市)

### (1) ボランティア団体が活発に活動



【「プロボノ」企画  
打合せの様子】

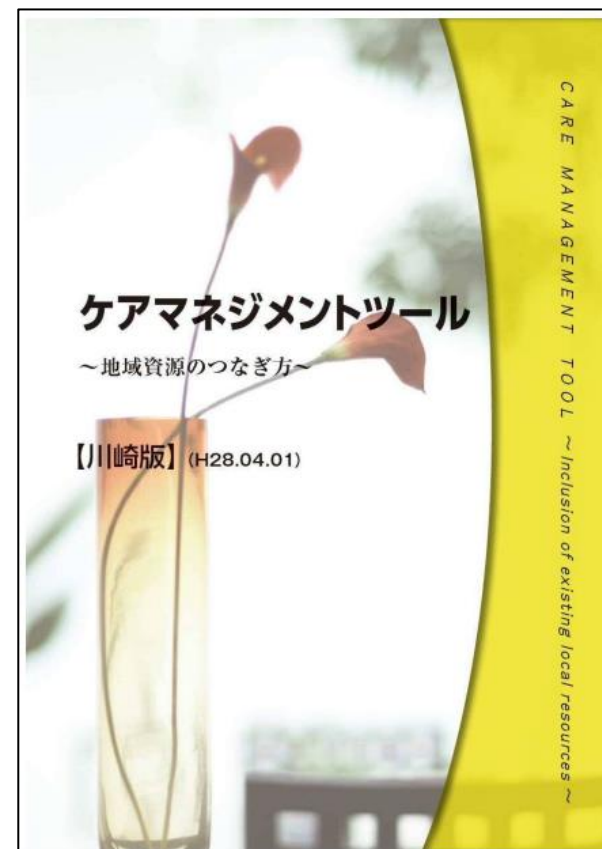
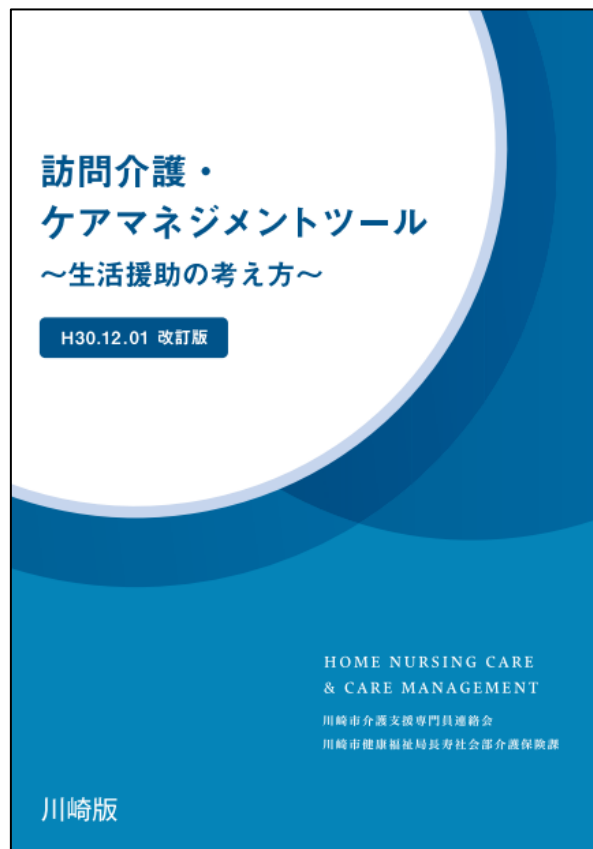
### (2) 高い技術力を持つ産業・研究機関など



【リサーチコンプレックス】

# 行政と介護支援専門員連絡会との協働

川崎市ではこれまで、「川崎市介護支援専門員連絡会」とともにケアマネジャーの実践力向上を図るため、「ケアマネジメントツール」を3種類作成。



※川崎市介護支援専門員連絡会のホームページよりダウンロード可能  
<https://www.kawasaki-caremane.com/index.html>

川崎市介護支援専門員連絡会に委託し、ケアマネジャーが電話やメールで同じケアマネジャーに対して気軽に相談できる窓口「ケアマネ知恵袋」を設置（令和4年度）。



## かわさきケアマネ知恵袋

KAWASAKI CITY ～ケアマネのための身近で気軽な相談窓口～

令和4年4月から 川崎市介護支援専門員連絡会が  
川崎市より委託を受けて実施しています！

### 業務で悩んでいること 迷っていること

**相談無料**  
知恵を出して一緒に解決方法を考えましょう！  
必要に応じて関係機関へも繋いでいきます！

ケアマネ業務の書式、他の人ごんなの使っている？

家族同士の意見の対立・・・どうしている？

加算の算定方法、サービスの利用、組み立て方みんなどうしている？

こんな相談来ています

介護保険以外の制度、どのように使えばよい？

オートロック、ごみ捨ての管理どうしていますか？

現任のCMが対応します  
お気軽にご相談下さい

**窓口開設日** 第2・4 水曜日 14:00～16:00  
※日程変更などは川崎市介護支援専門員連絡会のHP参照

**お電話はこちら** 専用ダイヤル 080-1585-1425

**Webアンケート**  
(Googleフォーム)はこちら <https://onlka/ZJFVH6>  
Webアンケートは、開設日に限らずいつでも送信いただけます



\*相談の内容を検討しますので、回答にはお時間をいただくことがあります\*  
\*相談内容は個人情報に充分留意をした上で、川崎市介護支援専門員連絡会のホームページで公開されることがあります\*

『ケアマネジメント機能強化事業』運営事務受託



### 川崎市介護支援専門員連絡会

住所：〒211-0053 川崎市中原区上小田中3-22-10 杉浦ビル3階  
TEL：044(872)8372 FAX：044(872)8374

2022.10



# 行政と介護支援専門員連絡会との協働

川崎市と川崎市介護支援専門員連絡会の共催により、厚生労働省の担当者を講師に招き、**令和3年度介護報酬改定と居宅介護支援等に係る制度改正に関する研修会**を開催（令和3年8月31日、参加者220人）。

より良い  
ケアマネジメント  
を实践するため  
には？

## 居宅介護支援等 の制度改正に 関する研修会

厚生労働省の担当者が制度改正の意図やポイントをわかりやすく解説

■令和3年度介護報酬改定の概要(居宅介護支援のQ&Aを中心に)  
■居宅介護支援等に係る制度改正(介護保険最新情報Vol.957,958,959,977関連)のポイント

**日時** 令和3年8月31日(火)  
14時00分～16時30分

**会場** 川崎市コンベンションホール  
ホールB・C ※裏面参照

**プログラム**

- ◆令和3年度介護報酬改定と居宅介護支援等に係る制度改正について  
講師: 原 雄亮 氏  
(厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課人材研修係長)
- ◆質疑応答

**対象者** 川崎市内在住又は在勤の介護支援専門員及び  
地域包括支援センター職員

**主催** 川崎市、川崎市介護支援専門員連絡会

お問い合わせ  
川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課  
TEL: 044-223-6953 FAX: 044-200-3974  
E-mail: 40rikikak@city.kawasaki.jp

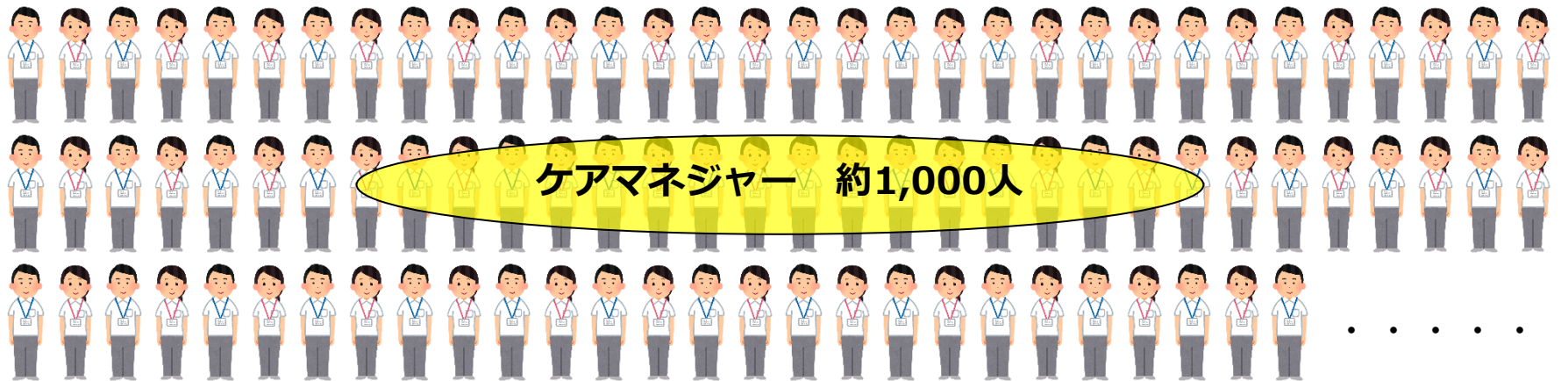
Colors, Future!  
KAWASAKI CITY  
川崎市



## I 基礎編

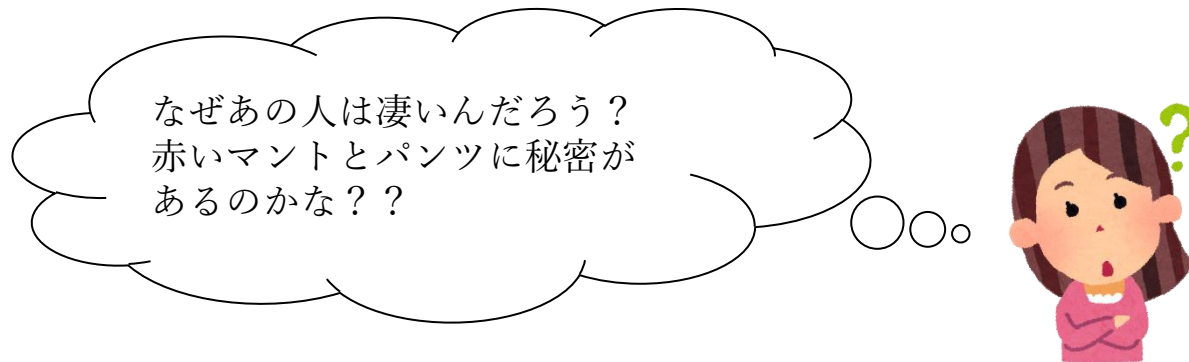
# 2. 「パターン・ランゲージ」作成の経緯

---



川崎市内で高齢者分野のソーシャルワーク・ケアマネジメントに従事する人は**1,200人以上**に上る。にもかかわらず、いわゆる「**できる人**」の**コツや経験**は共有されておらず、個々人が日々迷い、模索しながら成長していくしかない状況。

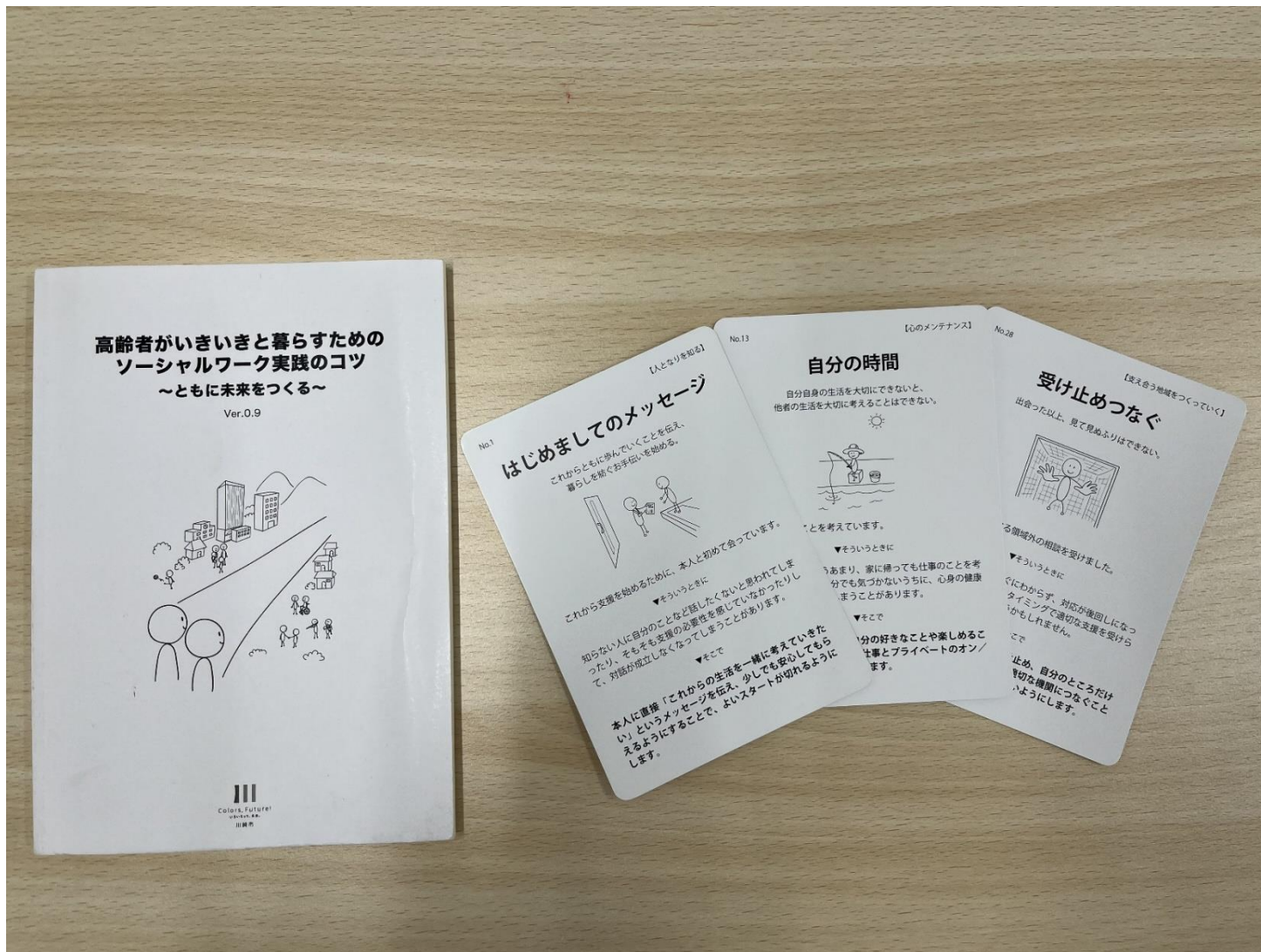
- ソーシャルワークの実践においては、熟達者が無意識に実践している「**経験則**」や「**コツ**」といったものが存在。
- しかし、マニュアルや教科書に落とし込むことが難しく、経験の浅い人に伝えるのは困難。



主に高齢者を対象としたソーシャルワーク実践の「**経験則**」や「**コツ**」を「**パターン・ランゲージ**」という手法を用いてまとめ、『**高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク ～ともに未来をつくる～**』を作成した。



# 『高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク ～ともに未来をつくる～』



## 【参考】『旅のことは：認知症とともにによりよく生きるためのヒント』

(井庭崇, 岡田誠 編著, 慶應義塾大学 井庭崇研究室, 認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ 著, 丸善出版, 2015)

井庭研×DJFI

認知症のご本人やご家族が、認知症とともにによりよく生きていくためのヒントを、40の言葉にまとめたものです。



中国語（繁体字）訳





# 【参考】『認知症アクションガイドブック』（川崎市）

川崎市では、平成29年3月に『旅のことば』とコラボして作成した認知症ケアパスを発行。



## 旅への一歩

ともに生きる、新しい旅のはじまり



もしかしたら、認知症かも…と想着いても、  
どうしてよいかわからず、  
そのままにしてしまうことがあります。

そんなとき、誰かに話してみることが、  
これからの人生をより良く生きるための一歩になる  
かもしれません。

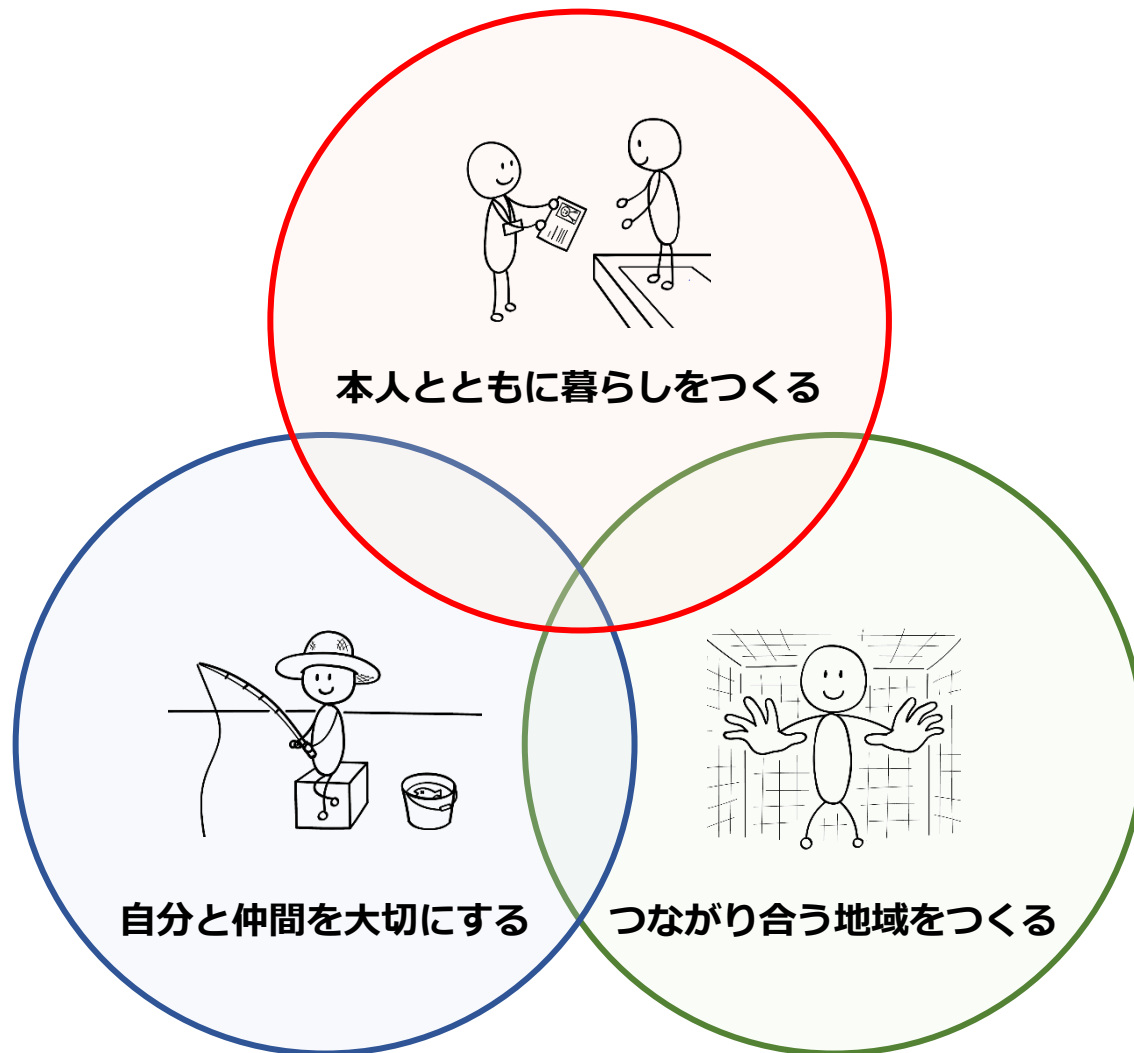
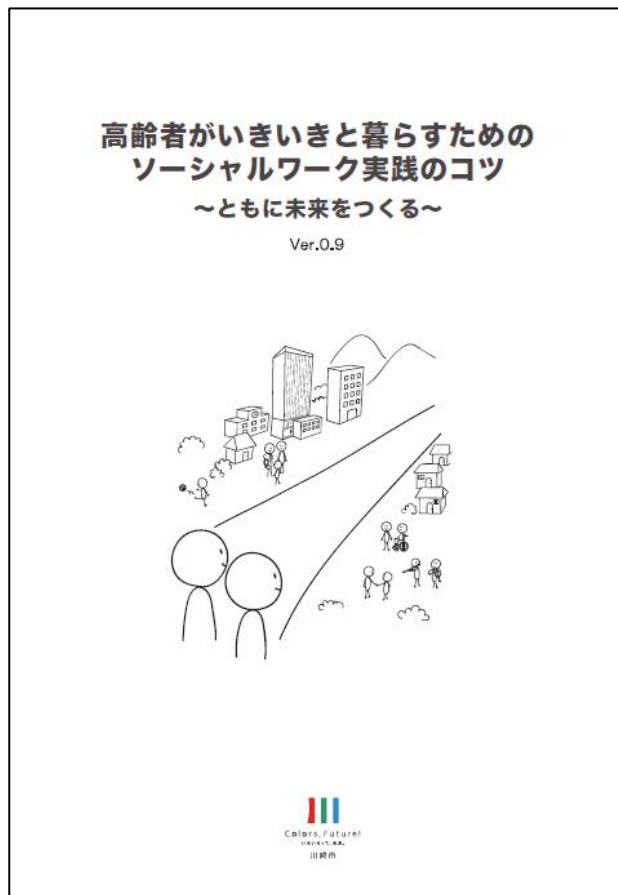
早めに動き出すことは、その後を大きく変える  
とても大切なことです。

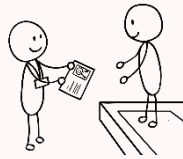
### 豆知識

早い段階から対応することで、認知症の進行を穏やかにしたり、認知症の原因によっては治せたりする可能性もあります。より早い段階で進行の予防が始められれば、その分、今の生活を長く続けることができ、自分らしさをより保つことができます。



- 高齢者等を対象としたソーシャルワークを行う上で大切なことが、「パターン・ランゲージ」の手法を使って30個の「ことば」にまとめられている。
- ケアマネジャーや地域包括支援センター職員、行政職員など主に高齢者に対するケアマネジメントや相談支援業務に従事する方々が、**職場や研修などさまざまな場で活用していただける内容**になっている。
- 本書で紹介する「ことば」が示す実践のあり方と考え方は、さまざまな優れた事例からソーシャルワークの本質に迫ったものになっているため、**高齢者だけでなく障害者や子ども、生活困窮者などさまざまな分野のソーシャルワークにも通じる内容**になっている。





## 本人とともに暮らしをつくる

### 【人となりを知る】

1. はじめましてのメッセージ
2. 重ねてつかむタイミング
3. 「実は・・・」のサイン

### 【ともに未来を描く】

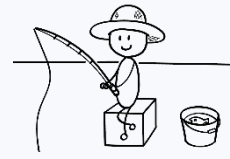
4. 生きてきた日々
5. 感じている世界
6. 気づきの発見

### 【チームで支える】

7. 納得をつくる
8. ぴったりの見極め
9. 多職種ハーモニー

### 【地域とつながる】

10. まちの探訪散策
11. 縁をつなぐ
12. 気づきのネットワーク



## 自分と仲間を大切にする

### 【心のメンテナンス】

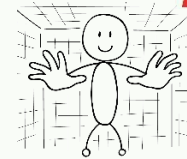
13. 自分の時間
14. 思い切って話す
15. プラスへの変換

### 【学びを重ねる】

16. 「これがいい」の探求
17. 実践と学びのサイクル
18. 学び合う仲間

### 【支え合える仲間】

19. 相手の事情
20. 会話の中のヒント
21. 頼れる仲間



## つながり合う地域をつくる

### 【伝わる工夫】

22. つながる工夫
23. 暮らしの中の医療
24. 言葉のすり合わせ

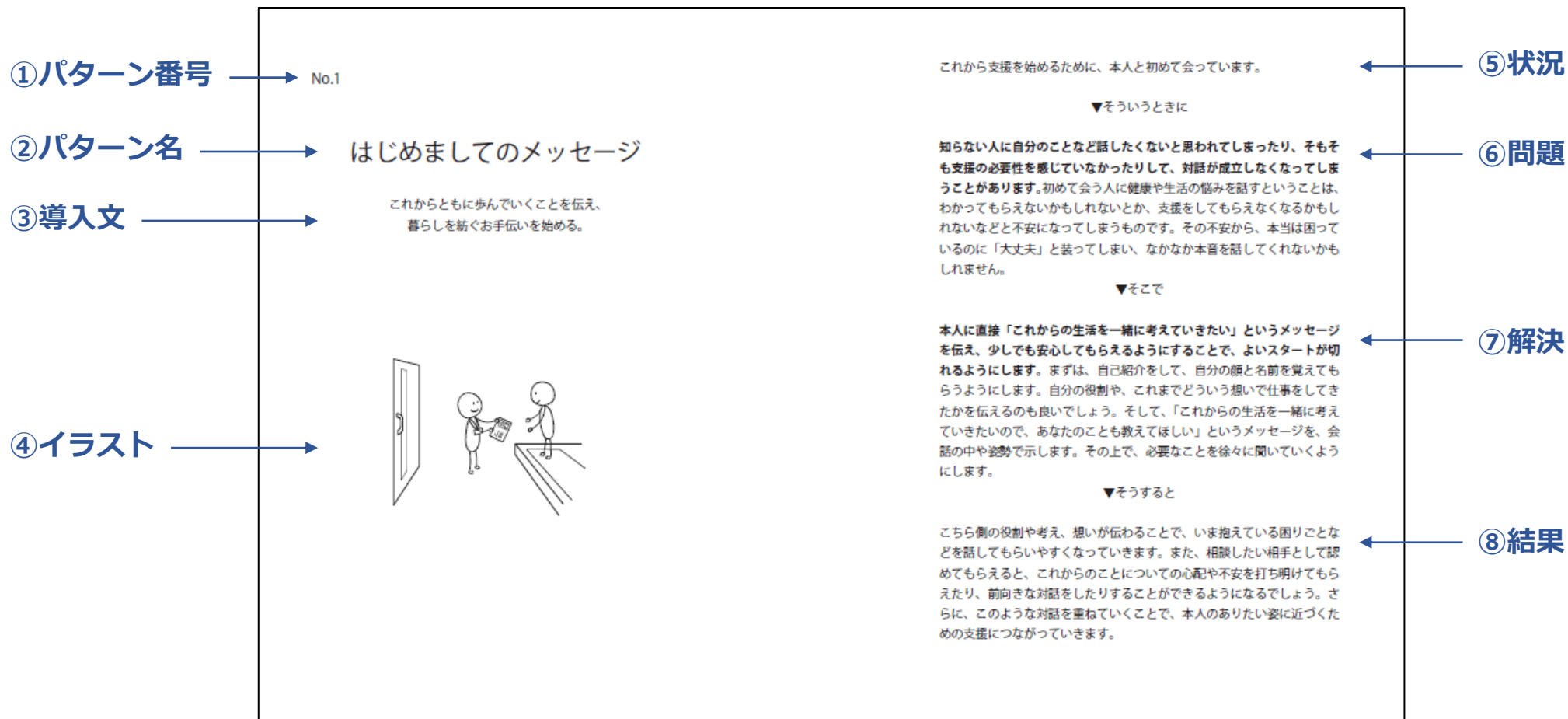
### 【切れ目のない支援】

25. チームのデザイン
26. やるための仕掛け
27. 気づきの後押し

### 【支え合う地域をつくっていく】

28. 受け止めつなぐ
29. 「のりしろ」の重ね合い
30. ともにつくる未来

# パターン・ランゲージ（冊子版）の構成



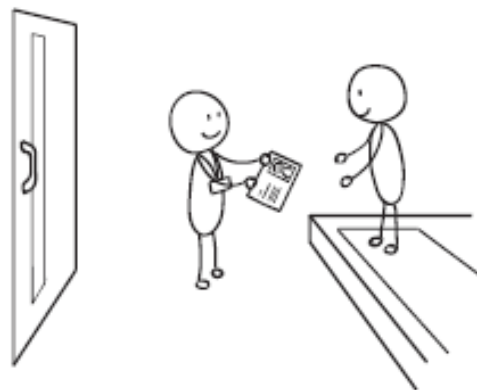


①パターン番号 → No.1

②パターン名 → はじめましてのメッセージ

③導入文 → これからともに歩いていくことを伝え、暮らしを紡ぐお手伝いを始める。

④イラスト →



これから支援を始めるために、本人と初めて会っています。

← ⑤ 状況

▼そういうときに

知らない人に自分のことなど話したくないと思われてしまったり、そもそも支援の必要性を感じていなかったりして、対話が成立しなくなってしまうことがあります。初めて会う人に健康や生活の悩みを話すということは、わかってもらえないかもしれないとか、支援をしてもらえなくなるかもしれないなどと不安になってしまうものです。その不安から、本当は困っているのに「大丈夫」と装ってしまい、なかなか本音を話してくれないかもしれません。

← ⑥ 問題

### ▼そこで

本人に直接「これからの生活を一緒に考えていきたい」というメッセージを伝え、少しでも安心してもらえるようにすることで、よいスタートが切れるようにします。まずは、自己紹介をして、自分の顔と名前を覚えてもらうようにします。自分の役割や、これまでどういう想いで仕事をしてきたかを伝えるのも良いでしょう。そして、「これからの生活を一緒に考えていきたいので、あなたのことにも教えてほしい」というメッセージを、会話の中や姿勢で示します。その上で、必要なことを徐々に聞いていくようにします。

← ⑦解決

### ▼そうすると

こちら側の役割や考え、想いが伝わることで、いま抱えている困りごとなどを話してもらいやすくなっていきます。また、相談したい相手として認められると、これからのことについての心配や不安を打ち明けてもらえたり、前向きな対話をしたりすることができるようになるでしょう。さらに、このような対話を重ねていくことで、本人のありたい姿に近づくための支援につながっていきます。

← ⑧結果

# パターン・ランゲージ（カード版）の構成

①パターン番号

No.18

【学びを重ねる】

②パターン名

## 学び合う仲間

③導入文

仲間とのつながりが、自分の成長につながる。

④イラスト



⑤状況

良い支援をしたいと思っています。

▼そういうときに

⑥問題

一人の判断で対応を続けていると、本人のできないことや不便に思っていることを解決しているつもりでも、全体的に見ると自立につながっていないということが起こってしまうかもしれません。

▼そこで

⑦解決

仲間や関係機関と事例検討会や研修会を開催したり参加したりして横のつながりを作ることで、自らの実践を振り返ったり、お互いから学び合ったりできるようにします。

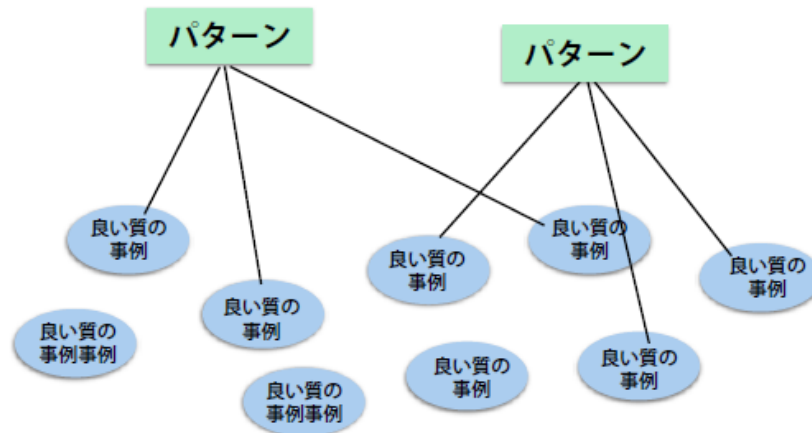
- パターン・ランゲージは、もとも1970年代に**建築家クリストファー・アレグザンダー**が**住民参加のまちづくりのために提唱した知識記述の方法**である。
- アレグザンダーは、**町や建物に繰り返し現れる関係性を「パターン」と呼び、それを「ランゲージ」（言語）として共有する方法**を考案した。
- その後、パターン・ランゲージは1990年代にソフトウェアの分野に取り入れられるようになり、2000年以降は教育や福祉、子育て、プレゼンテーションなど**人間の行為の秘訣を記述することに応用されるようになってきている。**



「パターン・ランゲージ」は、**良い実践の秘訣を共有するための方法**である。**成功している事例やその道の熟練者に繰り返し見られる「パターン」を抽出し、抽象化を経て言語（ランゲージ）化している。**

## パターン・ランゲージ

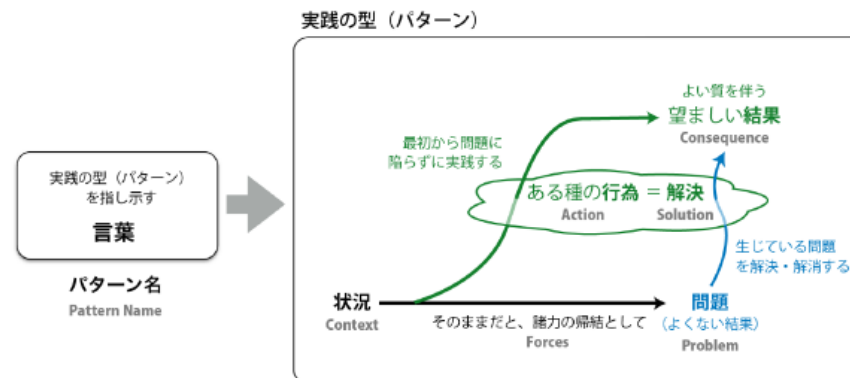
ある領域において**良い質を生む設計（デザイン）・やり方**に潜む「**型**」（**パターン**）を抽出して**概念・言葉にし、**  
**体系化して、共通言語（ランゲージ）として用いる**  
**ことができるようにまとめたもの**



たまたま生じた特殊な事例ではなく、**広く繰り返し見られること**の**共通項に着目する。**

- 「パターン」は、いわば型のようなものをもっており、決まったルールで書かれている。どのパターンも、ある「状況」(context)において生じる「問題」(problem)と、その「解決」(solution)方法がセットになって記述され、それに「名前」(パターン名)がつけられている。
- このように一定の記述形式で秘訣を記することによって、「名前」(パターン名)に多くの意味が含まれ、それが共通で認識され、「言葉」として機能するようになっている。

ある「状況」において「望ましい結果」に至る方法  
(その「状況」で生じやすい「問題」を「解決」する方法)  
に言葉を与え、実践のための共通言語をつくる

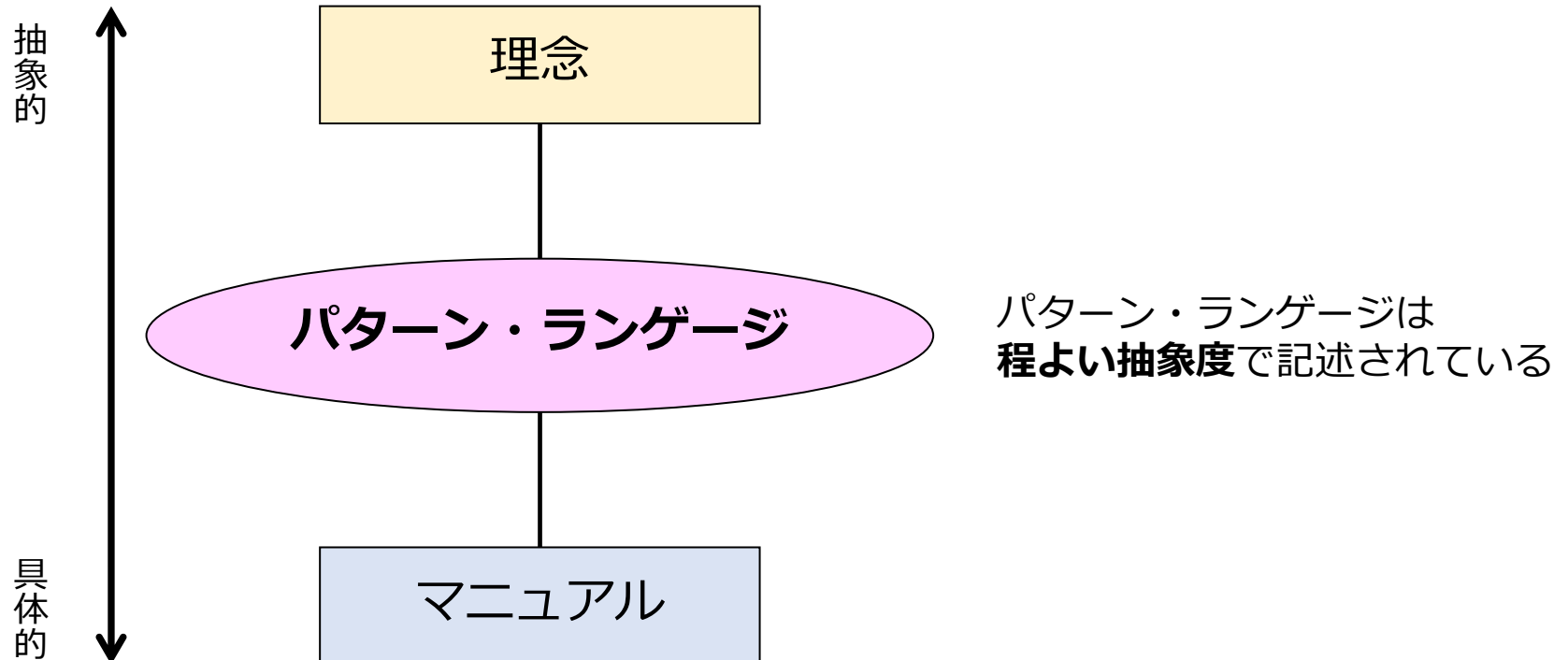


- ① どのような「状況」で、何をすると「望ましい結果」に至ることができるのか
  - ② どのような「状況」で、どのような「問題」が生じやすく、それはどのように「解決」できるのか
- この一連の実践の型 (パターン) に「言葉」(パターン名)を与える

▶ 多くの人の中で、その「言葉」(パターン名)のセットを「実践の共通言語」として用いることができるようになる。

出典：株式会社クリエイティブシフトウェブサイト, <https://creativeshift.co.jp/>

- 現在、多くの領域では、理念とマニュアル（行動指示）の間をつなぐ言葉が存在しない。
- 理念だけでは、具体的にどのような行動をすればよいのかがわからない。一方、マニュアルには具体的な行動が書かれているが、ある程度一般化せざるを得ず、ソーシャルワークのように個別性の高い領域においては限界がある。
- パターン・ランゲージは、理念とマニュアルの「中空」を結ぶ「言葉たち」である。





# パターン・ランゲージは、大切なことを程よい抽象度、程よい分量で わかりやすく記述しており、「言葉」として用いることが可能

「クライアントのほとんどが面接の導入時、目の前にいる人は一応相談担当になっているようだが、確実に自分が直面している問題を相談できる人であるか否かをうかがっておられるのですが、それでも単刀直入に質問されるかたはまだ少ないように思います。（中略）援助者自身と援助者が置かれている状況のポジショニングが重要であり、「援助者が自信をもって＜何ができるか＞」を伝えられませんか、相談者も納得しないと考えられます。」

奥川幸子『身体知と言語 対人援助技術を鍛える』，中央法規，2007，P128-130.

「ケースワーカーは援助したいという願望を必ずしも言葉で伝える必要はない。その願望は情緒的な雰囲気によってクライアントに伝わるものである。つまり、その願望をクライアントに伝えようとするとき、どのような言葉で伝えるかが重要なのではなく、温かさやクライアントに対する思いが伝わるのが大切なのである。」

F.P.バイステック著，尾崎新，福田俊子，原田和幸訳，『ケースワークの原則 [新訳改訂版] 援助関係を形成する技法』，誠信書房，2006，P43.

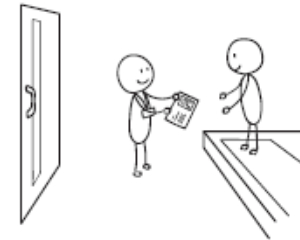


No.1

【人となりを知る】

## はじめましてのメッセージ

これからともに歩いていくことを伝え、  
暮らしを紡ぐお手伝いを始める。



これから支援を始めるために、本人と初めて会っています。

▼そういうときに

知らない人に自分のことなど話したくないと思われてしまったり、そもそも支援の必要性を感じていなかったりして、対話が成立しなくなってしまうことがあります。

▼そこで

本人に直接「これからの生活を一緒に考えていきたい」というメッセージを伝え、少しでも安心してもらえるようにすることで、よいスタートが切れるようになります。

「ケースワーカーは、クライアントの表情、視線、手の動き、姿勢、あるいはためらいがちな話し方や言い回しなど、言葉によらない表現を観察することによって、クライアントの個別性を理解することもできる。クライアントは、話したいことすべてを話せるわけではない。しかし、彼は態度を通して、知らず知らずのうちに、苦痛をさほど感じることもなく、彼自身を表現しているものである。」

F.P.バーステック著、尾崎新、福田俊子、原田和幸訳、  
『ケースワークの原則 [新訳改訂版] 援助関係を形成する技法』，誠信書房，2006，P43.

No.3

【人となりを知る】

## 「実は・・・」のサイン

本当の想いは言葉以外のところに現れる。



本人のことをもっと深く理解したいと思っています。

▼そういうときに

話してくれた内容だけを手がかりに本人像を描こうとしても、表面的になってしまったり、本心とずれた解釈をしてしまったりして、本人を理解することにはつながりません。

▼そこで

本人の言葉にできていない気持ちや発言とのギャップがないかなど、言葉以外の部分にも着目しながら本音に近づけるようにします。

「「いま、目の前にいる人は身体的に、情緒的に、認知的に、社会関係のなかでどのような状況にあるのか」を、過去・現在・未来の座標軸のなかで4次元的にとらえ、その人の<いま>を構造的に理解し、その人が置かれている問題状況を取りまく環境との関係も含めて、できるだけその人の内面世界に添って位置づけしたうえで、クライアントの対処課題・ニーズを抽出し、しかもそのことを援助者とクライアントとのあいだで共通認識できることが援助の第一歩になります。」

奥川幸子『身体知と言語 対人援助技術を鍛える』，中央法規，2007，P43.

「本人の意思には、時間軸があり、「過去」「現在」「未来」という3つの柱があります。いつも本人は、現在だけでなく、過去を顧み、未来を予想しながら意思決定していくわけです。」

西川満則，大城京子『ACP入門 人生会議の始め方ガイド』，日経BP，2020，P37.

No.4

【ともに未来を描く】

## 生きてきた日々

これまでの人生に、これからのヒントがある。



よりよい支援をしていきたいと考えています。

▼その状況において

目の前にある困りごとだけを解決しようとしても、局所的な対応になってしまい、本人の望む暮らしを叶えることにはつながっていかない可能性があります。

▼そこで

これまでの人生を受け止め、これからどう生きていきたいかを確認しながら、本人の想いや価値観を中心に今後の生活のイメージを一緒につくっていきます。

「もともとACPには「選好」を聞くとあります。「選ぶ・好む」は英語でpreferenceと言いますね。あたかもチェックボックスのように延命治療をするの？ しないの？ 最期は自宅なの？ 病院なの？ 代弁者は子どもなの？ 自分のパートナーなの？ というような、選ぶことだけでACPが完結すると解釈される方もいますが、そうではなくて、その背後にある価値観（value）、言い換えれば人生の中で譲れないこととか、今の生活で大切にしていることとか、気がかりが何だとか、そういったことを共有するプロセスがACPとなるわけです。」

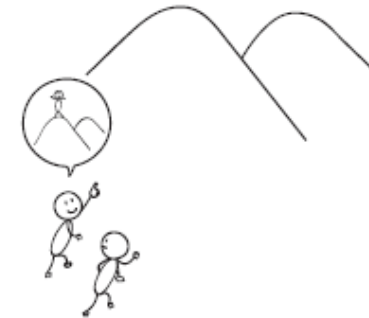
西川満則，大城京子『ACP入門 人生会議の始め方ガイド』，日経BP，2020，P30.

No.5

【ともに未来を描く】

## 感じている世界

「やりたい」は本人の中にある。



本人に合ったケアプランを作成しようとしています。

▼そういうときに

自分自身の価値観やこれまでの経験に当てはめて考えてしまうと、本人にとってはやらされ感が生じたり、できないことを突きつけられているように感じたりして、自立には程遠くなってしまいます。

▼そこで

本人の視点や感じている世界を想像し、同じ側に立って考えながら、本人が意欲を持って取り組みたいと思えるようなプランを作成します。

「実務的には、広く浅い知識が必要となる。当該地域の専門的な資源状況を十分にとらえておいて、適切な時に適切な専門家の強力を仰げるかが実力となる。その上で、専門的な知識や技術は、その専門職に任せればいい。こうしたポジションが、ケアマネジャーは「オーケストラの指揮者」と称される部分である。」

野中猛, 上原久『ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質』, 中央法規, 2013, P17.

「多職種連携の利点は、異なる専門職による多様な問題認識や知識、考えが積み重ねられることで、問題を多面的にとらえられることにある。であれば、この連携は、同じような問題のとらえかたをする人びとによって形成される「同質型の連携」と同じであってよいはずがない。」

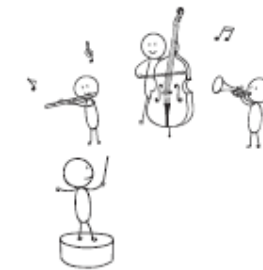
井出英策, 柏木一恵, 加藤忠相, 中島康晴『ソーシャルワーカー「身近」を革命する人たち』, 筑摩書房, 2019, P71-72.

No.9

【チームで支える】

## 多職種のハーモニー

共通の目標に向かって、  
それぞれの専門性を発揮する。



ケアプランに沿って、多職種のチームで支援をしていますがとしています。

▼そういうときに

チームのメンバーそれぞれの価値観に基づいて行動をしても、それぞれの動きがバラバラになってしまうと、支援の方向性がずれていってしまうかもしれません。

▼そこで

本人を取り巻く状況を俯瞰的な視点で見渡し、それぞれの職種・立場からの意見を取り入れながら、支援の目標を本人の感じている世界や価値観を中心に定期的にチームで確認していくことで、本人にとって最適な支援を実現できるようにします。



「社会から排除されている人びとの「技能や自信を高める」ためには、彼らの居場所や活動の場、役割を社会に作り出すことが欠かせない。そうした場所や役割を作り出すためには、制度や仕組みはもちろんのこと、周囲の人びとの関係構造やアイデンティティなども含めた「社会環境」を、より人間の尊厳を保障する方向へと変えていく努力が求められるはずだ。」

「CAREをする私たちは、専門性をよりどころとして「誰かの面倒をみる」サービス・プロバイダーなのではなく、周りの人たちがうまくいくよう気にかけてながら支えていく「糸」をたくさん張り巡らせるような存在にならないといけないのだということかもしれない。」

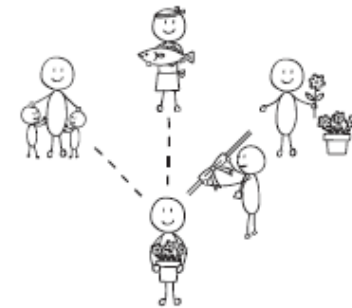
井出英策, 柏木一恵, 加藤忠相, 中島康晴『ソーシャルワーカー 「身近」を革命する人たち』, 筑摩書房, 2019, P55-56, P156-157.

No.11

【地域とつながる】

## 縁をつなぐ

大切にしていることを起点に地域とつながる。



本人の楽しみや生きがいを大切にしたいと思っています。

▼そういうときに

介護保険サービスを起点に考えてしまうと、暮らしていた地域から本人を離してしまうことになってしまうかもしれません。

▼そこで

本人の大切にしていることを手がかりに、暮らしている地域とのつながりの中からよい方法を探していくことで、いきいきとした暮らしが継続できるようにします。

「クライアントに生じているさまざまな人生や生活上の問題を援助者はその身に浴びます。問題状況にあるクライアントの多くが、強弱はあるにしてもストレス下にあります。そのストレスを他者の問題とはいえ、お裾分けされることはいくらでも起こります。そのストレスにさらされるのは<職業的な身体>であるとはいっても、本体には自分自身の人生と生活が入っているのです。その本体である<わたくしの身体>ががっちり<職業的な身体>を支えなければ、自らの健康を害なう落とし穴はいくらでもそこを開けて控えています。私生活の安定と心身の健康への留意は必須です。また、ストレスへの対処方法や自分の耐性の限界を知っておくことも大切です。」

奥川幸子『身体知と言語 対人援助技術を鍛える』，中央法規，2007，P359-360.

No.13

【心のメンテナンス】

## 自分の時間

自分自身の生活を大切にできないと、  
他者の生活を大切に考えることはできない。



いつも仕事のことを考えています。

▼そういうときに

熱心になってしまうあまり、家に帰っても仕事のことを考え続けてしまい、自分でも気づかないうちに、心身の健康のバランスが崩れてしまうことがあります。

▼そこで

業務時間外や休日には自分の好きなことや楽しむことに時間を使うことで、仕事とプライベートのオン/オフを切り替えるようにします。

「ケアマネジメントにおける知識は**実践技能**という側面を有しているので、知的理解だけではわかったことにならない。(中略)ケアマネジメントは**実践技能**であるため、**それぞれの技術の体験学習が必要**となる。特に重要な技能は、状況に合わせて各技能を適切に組み立てるための**メタ技能**である。」

野中猛, 上原久『ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質』, 中央法規, 2013, P38-39.

「白衣や制服を脱いで、地域の人たちに溶けこみ、そのなかで自分のとびっきりの専門性をさりげなく使うような存在、あくまでも丈夫な「杖」として伴走できるように、医療も、介護も、薬も、リハビリも、栄養も、口腔ケアも、年金も……。深いだけでなく、裾野の広さ、幅広い知見を蓄えたような存在こそが、**ソーシャルワーカー**なのではないか。」

井出英策, 柏木一恵, 加藤忠相, 中島康晴『ソーシャルワーカー 「身近」を革命する人たち』, 筑摩書房, 2019, P186-187.

No.17

【学びを重ねる】

## 実践と学びのサイクル

誰でも最初はわからないものだ。



色々なケースに直面します。

▼そういうときに

多種多様な状況に対応するには、自分自身の支援に関する全ての知識やスキルを総動員しても難しいのではないかと考えてしまい、自信をなくしてしまうことがあります。

▼そこで

新しいケースや課題に出会うたびに、関連する知識・情報を調べたり、専門職に意見を求めたり、ときには基本に立ち戻ったりしながら地道に引き出しを増やしていくようにします。



No.24

【伝わる工夫】

## 言葉のすり合わせ

お互いの違いを認め合った先に、答えがある。



他の専門職と対話をしようとしています。

▼そういうときに

相手と自分の考えの違いに目をつむったまま進めようとすると、話し合いが予期せぬ方向に行ってしまうことがあります。

▼そこで

お互いの考え方の違いを共有し認め合いながら対話を重ね、意見の相違があったときには言葉の認識を合わせることで、双方に納得がいく良い結論を導き出せるようにします。

「「見立て」の事例イメージを共有することは、支援目標を設定する事前作業として非常に重要な手続きである。（中略）議論によって深められた事例イメージと、参加者個々のイメージは微妙にズレている可能性がある。そのズレを少なくするために、このタイミングで改めて事例情報を要約的に共有する必要がある。」

野中猛，上原久『ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質』，中央法規，2013，P59-60.

「利用者のニーズに基づき、多領域の専門職の力を借りるケアマネジメント活動にチームワークを欠くことができない。（中略）ケアマネジャーは、チームリーダーであるよりもファシリテーターとか事務局の機能を果たす。」

野中猛，上原久『ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質』，中央法規，2013，P35.

「チーム安定期においては、チームメンバーがそれぞれの役割を自覚し、責任を持って役割を遂行するようになる。メンバー内にさまざまな葛藤や問題が生じたとしても、チームアプローチをあきらめるのではなく、チームとしての対応方法をそれぞれのメンバーが考え、率直な意見交換を行い、最終的な解決方法を見出すことができるようになる。」

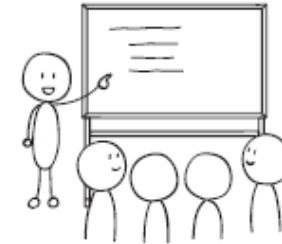
岡田進一，『ケアマネジメント原論 高齢者と家族に対する相談支援の原理と実践方法』，ワールドプランニング，2011，P144.

No.25

【切れ目のない支援】

## チームのデザイン

いざというときに、  
自分がいなくても機能するチームを作っておく。



多職種のチームで支援をしようとしています。

▼そういうときに

メンバーに単に仕事を振り分けていくだけでは、チームがうまく機能せず、支援が途切れてしまうことがあります。

▼そこで

チームの中で支援方針を共有してそれぞれの役割を明確にすることで、メンバー一人ひとりが担当領域で自律的に動けるようにし、切れ目のない支援が提供できるようにします。

「われわれは自分や自分の経験を検討するようになるにつれて、スーパービジョンなどの体験を、より豊かな学習を進める機会にすることができるようになる。(中略)われわれはスーパービジョンなどの経験を通して、自分自身の生活体験や人間関係を振り返って検討することで、情緒の要素を含む審判についての確信を育てることができるのである。」

F.P.バイステック著, 尾崎新, 福田俊子, 原田和幸訳,  
『ケースワークの原則 [新訳改訂版] 援助関係を形成する技法』, 誠信書房, 2006, P153-154.

No.27

【切れ目のない支援】

## 気づきの後押し

経験からしか学べないこともある。



後輩に育ってもらいたいと思っています。

▼そういうときに

知識を机上で学んでもらうだけでは、実践力を身につけることはできません。

▼そこで

後輩が利用者との関わりや他職種とのやりとりを通して実際に経験したことを、一緒に振り返ることで、自信につながる気づきを促すようにします。

「ソーシャルワーカーは、**地域**というメゾレベルにおける「**人びと**」の**関係**をつうじて課題を発見し、**解決**していくなかで、さまざまな関係者（家族や住民など）、組織（各種のボランティア団体や民間団体、自治組織など）、制度（給付金や補助金、各種の行政施設など）をつなぎあわせていくことができる。（中略）同時に、民間や行政の人たちに組織的、制度的な不備、問題点をわかってもらい、より広い意味での**社会変革**に繋がっていくこともあるだろう。」

井出英策， 柏木一恵， 加藤忠相， 中島康晴『ソーシャルワーカー 「身近」を革命する人たち』， 筑摩書房， 2019， P211-212.

No.30

【支え合う地域をつくっていく】

## ともにつくる未来

一人ひとりのつながりを紡ぎ、  
地域を織りなす。



日々多くの人の自立を支えようと頑張っています。

▼そういうときに

一人ひとりの問題を解決しているだけでは、地域の中で同じような問題が繰り返して起こってしまいます。

▼そこで

一人ひとりの支援に必要なネットワークを築いたり、「人それぞれ」の個別支援から「みんな一緒」の地域課題を抽出して解決したりすることで、誰もが住みやすい地域をつくっていくようにします。

## (1) 経験の交換・蓄積

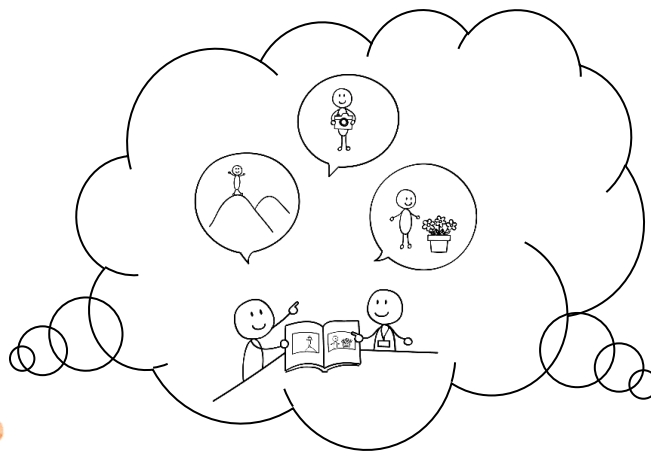
「言葉」として対話のなかで使うことで、「秘訣」を共有できる。

Aさんに何を聞いてもはっきりした答えが返ってこなかったんだけど、部屋に飾ってあった旅行の写真について質問したときだけ、目を輝かせて思い出を話してくれたんだよね。その後はスムーズにやりとりができて、結果的にAさんの本当の気持ちを聞くことができてラッキーだったよ。



つまり何が良かったんだろう・・・？

Aさんの「**生きてきた日々**」を丁寧に聞くことで、これからの暮らしで大切にしたいことを一緒に確認することができたんだよ。



なるほど！ じゃあ、自分が担当しているBさんにも今度「**生きてきた日々**」を聞いてみよう・・・



## (2) 認識のメガネ

「言葉」がなければ見えない現象を認識できるようになる。

言葉（名前）がないと・・・



どちらも4本脚の上に  
板が乗っていて・・・

言葉（名前）があると・・・



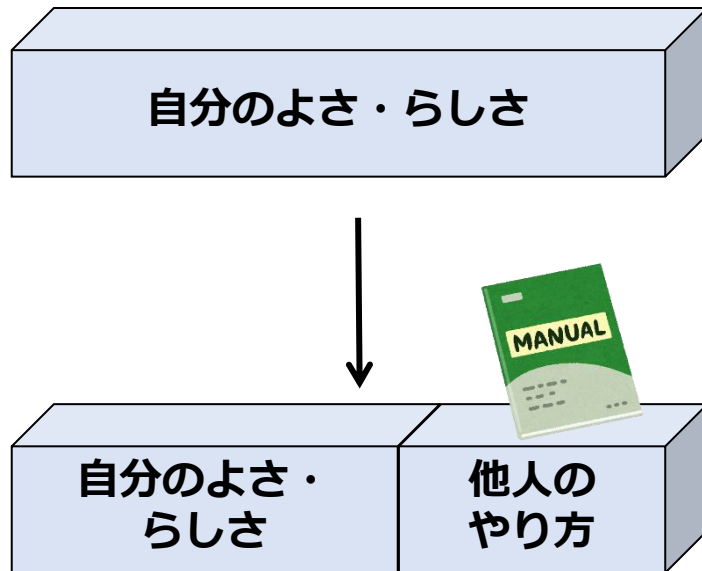
**机**を動かしたい！  
**椅子**をあと3つほしい！



## (3) 経験の連続性

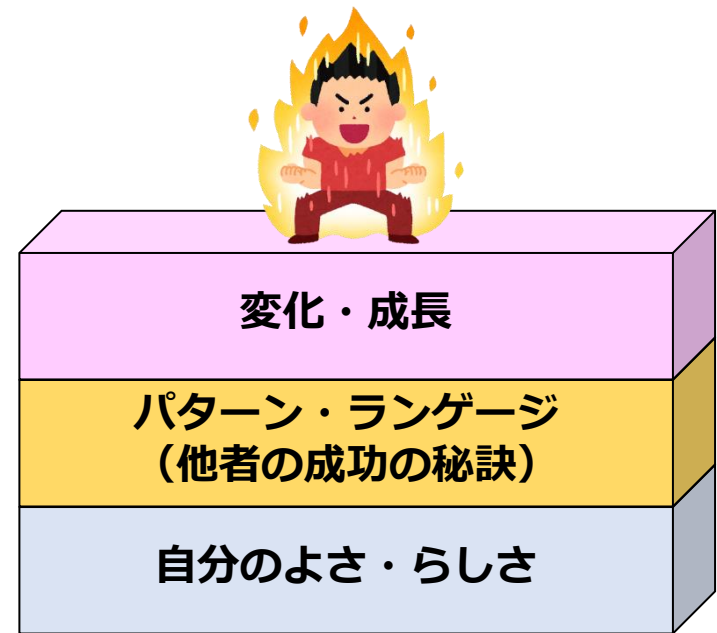
自分の経験を活かしつつ、他の人の成功の経験則を取り入れることで、**その人らしさを肯定しながら成長することを促す。**

マニュアルだと・・・



時には**自分のよさ・らしさを否定して**他人のやり方を真似しなければならない

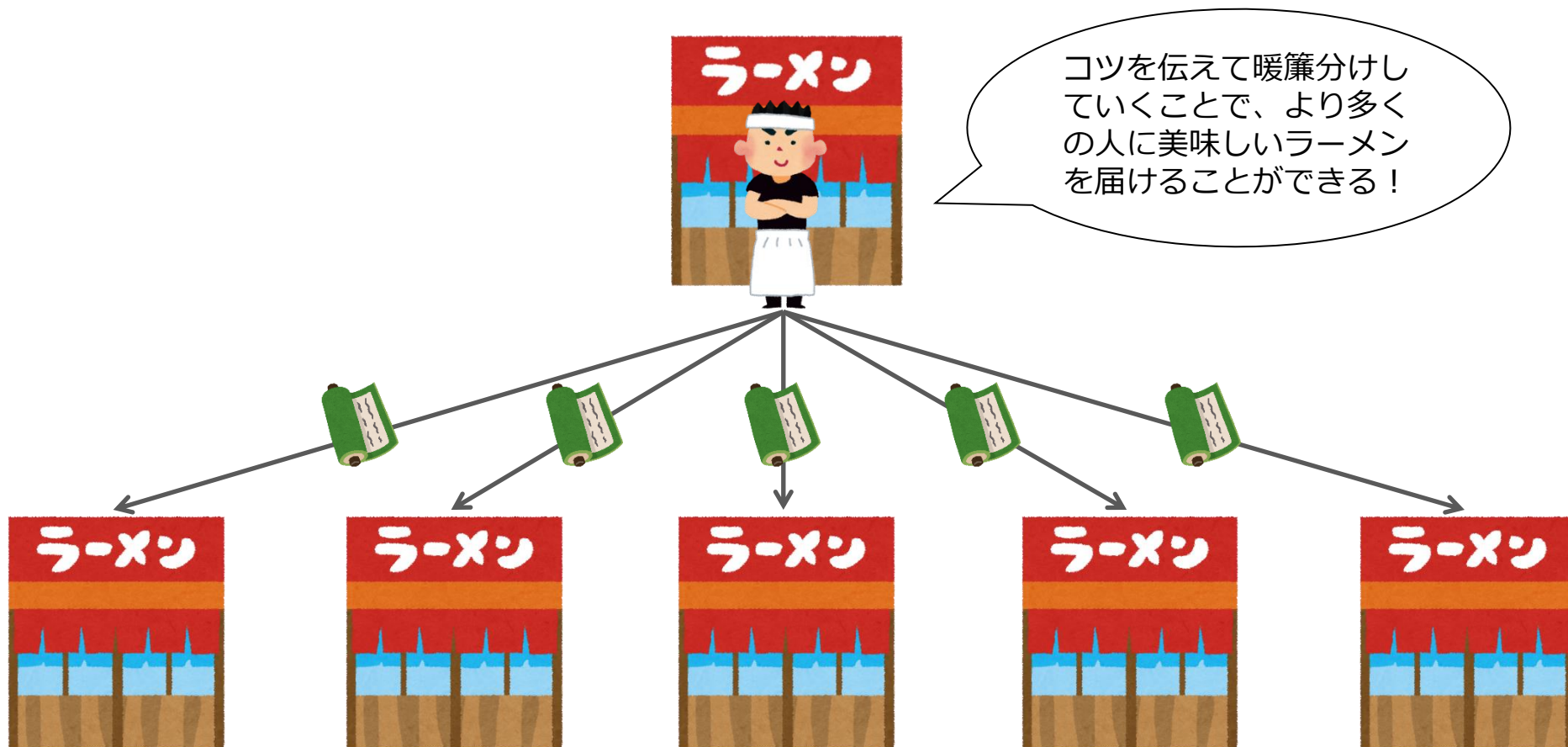
パターン・ランゲージだと・・・



今の自分に成功の秘訣を取り入れていくことで、**自分のよさ・らしさを保ちながら、変化・成長していくことができる**

## (4) よい実践の暖簾分け

属人的な「よい実践」のコツを多くの人と共有することで、より多くの人に「よい実践」の恩恵を届けることができるようになる。





## I 基礎編

# 3. 「パターン・ランゲージ」作成のプロセス

---

- 令和4年度、「地域包括支援センター業務検討委員会」(※)にワーキングを設置し、パターン・ランゲージを作成していくこととした。  
※地域包括支援センターが日々の業務において抱えている実務上の課題等の整理と解決に向けた取組について、地域包括支援センターと行政で検討を行う会議。
- ワーキングは、地域包括支援センター、川崎市介護支援専門員連絡会、区役所高齢・障害課、市健康福祉局地域包括ケア推進室及び総合リハビリテーション推進センターで構成。また、長年パターン・ランゲージの作成・研究に従事されている慶應義塾大学の井庭崇教授が代表を務められている(株)クリエイティブシフトもアドバイザーとして参画。
- パターン・ランゲージの作成には膨大な時間を要するため、各作業工程の節目をワーキングに充て、その他の作業は事務局(地域包括ケア推進室、総合リハビリテーション推進センター)が中心となって実施した。

## <ワーキングの開催結果>

	日程	内容
第1回	令和4年8月31日(水)	パターン・ランゲージの説明、今後の進め方
第2回	令和4年11月10日(木)	クラスタリング(インタビューから抽出したパターンの種の整理)
第3回	令和4年11月30日(水)	体系化(クラスタリング作業を行った上で作成したまとめごとの要約を元に、抽象化・統合・切り捨てなどにより構造を捉え、全体像と各パターンの位置づけの体系を作る作業)
第4回	令和5年2月9日(木)	パターン名付け、イラストラフ画描き
第5回	令和5年3月13日(月)	区役所・地域包括支援センター新任職員フォローアップ研修において、未完成のパターン・ランゲージを使ったグループワークを試行実施

## パターン・ランゲージ作成の流れ(所要期間 約4ヶ月～8ヶ月)

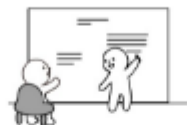
### マイニング(1か月)

#### 1. キックオフ



パターン・ランゲージの理解を深め、これから取り組む活動の目的と成果・進め方等を共有する

#### 2. マイニング・インタビュー



コツを引き出したい対象にインタビュー形式で行う。6名～10名程度。

#### 3. 種の記述



コツと思われるものを拾い出す

### 抽出(0.5～1か月)

#### 4. クラスタリング(会)



コツそれぞれの近さや性質から、K法を使って似ているものを集めて分類し、パターンの元をつくる

#### 5. 仮ライティング(CPS=概要)



パターン・ランゲージ形式で主旨を捉える(CPSライティング)

### 体系化(0.5か月)

#### 6. 体系化(会)



抽象化・統合・切り捨てなどにより構造を捉え、全体像と各パターンの位置づけを捉え、体系をつくる

### ライティング・シンボライジング(2.5か月～4か月)

#### 7. パターン・ライティング(レビュー&リバイズ)



文章をパターン形式で作成するとともに、正しく伝わる文章として実践知を言語化していく

#### 8. シンボライジング(レビュー&リバイズ)



各パターンの本質を表すイラストと、名前・紹介文を作成する

#### レビュー(会)



うまく抽象化できているかを必ず複数人で確認する

#### リバイズ



レビューを受けての修正。通常、レビュー&リバイズは数回繰り返される。

### アウトプット



冊子化(読み物)



カード化(対話用)



オブジェクト化(日常との融合)



アプリ化(学習・分析など)

## <マイニング・インタビュー>

- 介護支援専門員7名、地域包括支援センター職員8名、行政職員3名の計18名にインタビューを実施。
- 始めに、ケアマネジメントやソーシャルワークの実践において大切にしていることは何かを質問。
- その回答を起点に、「Why（なぜそうしているのか）」「Action（具体的に何をしたのか）」「Problem（それをしないとどうなるのか）」を深掘りしていった。

## <種の記述>

- インタビューで聞き出した内容から、コツと思われるものを拾い出した。

### (参考) 種の一覧

発言者	記述者	How(実践されている具体的な行動、考え)	Why(その具体的な行動をする理由)	補足情報
〇〇	〇〇	非言語の部分でどの言葉に対して本人が高揚感を示しているかとか観察してわかるので、その言葉を拾って深掘りする	語りには自己編集が働くので、本人が語りたい内容について語られる傾向がある。感情面は非言語の部分に出やすい。	本人の話を引き出すには？
〇〇	〇〇	できるだけ言葉だけじゃなくて図式化とかして、真ん中にスケッチブックとかを置いてジェングラムとか書きながら本人と一緒に現在地みたいなのを確認しながら進めていく	本人の理解の仕方も人によって異なり、図や絵だったら理解できるとか、言葉による理解の方が良いとか、映像が良いとか、それぞれ特性があるのでその特性をつかむようにする	
〇〇	〇〇	お互いに共通理解ができているかという確認しながら進めることができる。		図式化するのとしないのとで何が違うか？
〇〇	〇〇	面接技術やアセスメントスキルとか、技術やスキルとつくものは訓練や練習をすれば上手になる	ソーシャルワークをセンスで捉えたくない	非言語の部分を読み取るには？

## <クラスタリング>

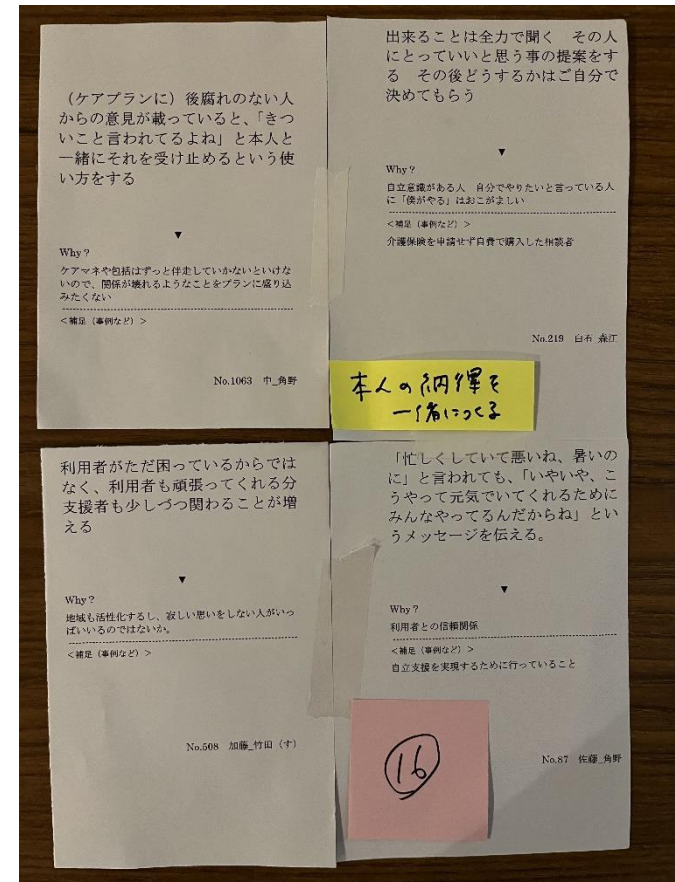
- 18人のインタビューから抽出したパターンの種（約1,000個）を、KJ法を用いて、**その内容の本質的な部分において似ているものを集めて分類し、パターンの元を作成した。**





## <体系化>

- クラスタリング作業を行った上で作成したまとめごとの要約を元に、**抽象化・統合・切り捨て**などにより構造を捉え、**全体像と各パターンの位置づけを捉え、体系を作った。**





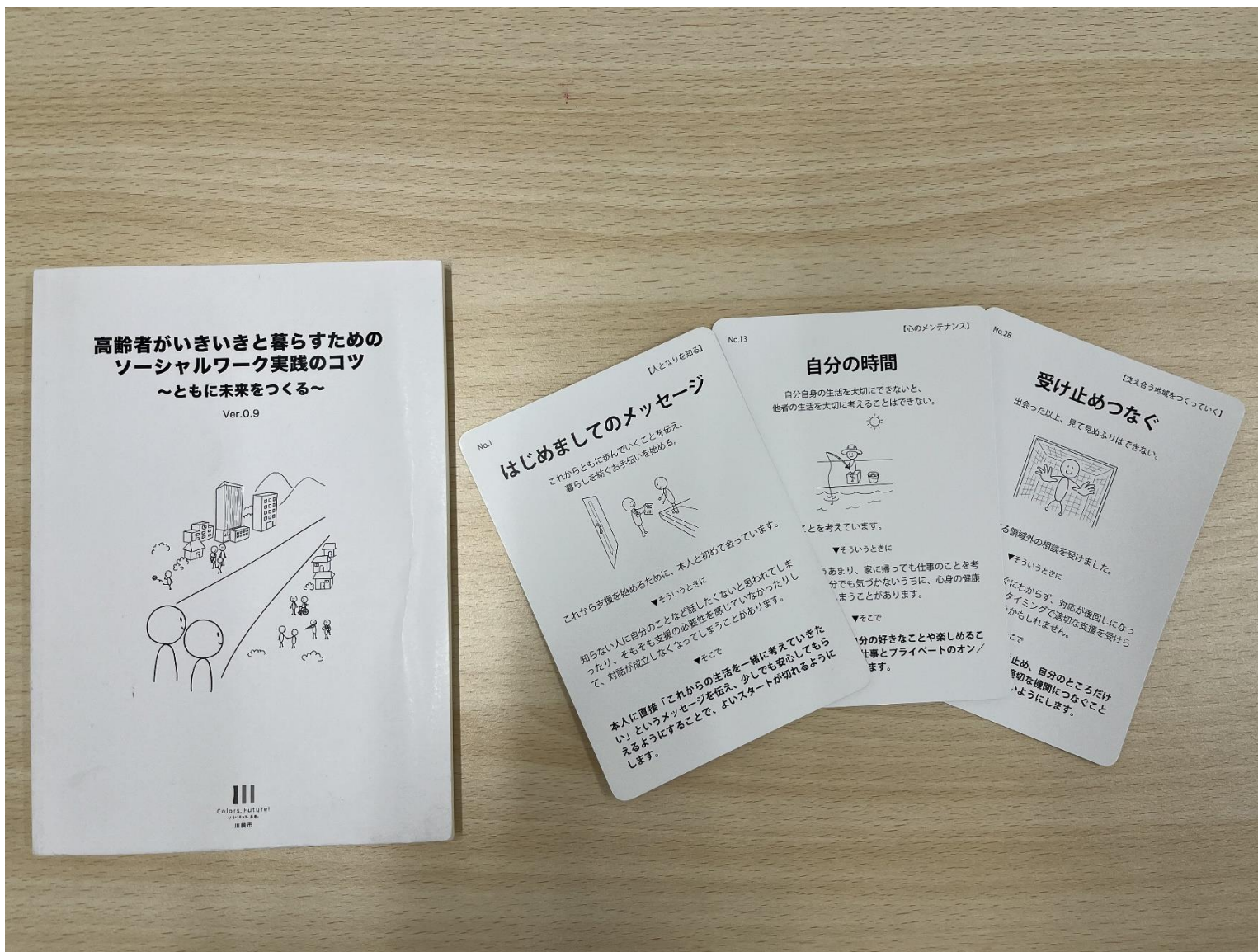
## <パターン・ライティング>

- 文章をパターン形式で作成するとともに、正しく伝わる文章として実践知を言語化していった。

## <シンボライジング>

- 各パターンの本質を表すイラストと、名前・紹介文（イントロダクション）を作成した。

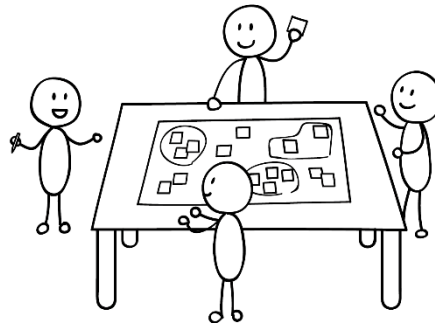




- 現在の冊子・カードは「Ver.0.9」とし、未完成扱いになっている。
- 令和5年度に実施している読書会等における感想・意見を反映するとともに、障害者分野や医療分野でソーシャルワーク業務に従事されている方々に追加インタビューを行い、既存の30パターンと併せて再体系化を行う。



**令和5年度中に改訂作業を行い、令和6年3月にVer.1を発行予定。  
タイトルから「高齢者」という文言は削除し、あらゆる分野のソーシャルワークに共通するパターン・ランゲージとしてリニューアル予定。**



## Ⅱ 実践編

# 1. 冊子・カードの入手方法

---

- 川崎市公式ウェブサイト内において「**高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ**」で検索  
(<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000149753.html>)
- 冊子、経験チェックシート及び経験チャートのデータをダウンロードできます。
- 読書会や使い方講座等の情報も随時掲載しています。



The screenshot shows the top navigation bar with language options (English, 中文繁体, etc.) and utility links (Site Map, Usage, FAQ, etc.). Below is the search bar and a menu with categories like 'Top', 'Living/Procedures', 'Notice/Events', 'City Facilities', 'Kawasaki's Charm', 'Business/Job Support', and 'Municipal Information'. The breadcrumb trail indicates the current page is under 'Living/Procedures' > 'Welfare/Care' > 'Local Rehabilitation' > 'Comprehensive Rehabilitation Promotion Center' > 'Enterprise/Partnership Promotion Course' > 'Social Work Practice Tips for the Elderly'.

## 高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ ～ともに未来をつくる～

Twitterへのリンクは別ウィンドウで開きます [ツイート](#) 2023年9月29日  
コンテンツ番号 149753

### What's New

- **第6回・第7回読書会を開催します。**  
『高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ ～ともに未来をつくる～』を参加者全員で一緒に読み、感想やエピソードを共有し合う読書会を開催します。「学び合う仲間」をつくることで、自らの実践を振り返ったり、お互いから学び合ったりしませんか？

#### 第6回読書会

#### 企画・連携推進課

- 高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ ～ともに未来をつくる～
- [令和5年度川崎市内介護・福祉従事者向け研修実施予定一覧について](#)
- [心のサポーターについて](#)
- [川崎市における自殺対策・メンタルヘルス対策について](#)
- [障害者支援関係](#)
- [高齢者支援関係](#)



- カード版は、原則として川崎市内の地域包括支援センターやケアマネジャー等に配布しています。
- この講義をご覧いただき、「カード版を使ってみたい」という**川崎市外の自治体・事業所等**がいらっしゃいましたら、以下の方法でPDFデータを提供させていただきます。

## ＜川崎市外の自治体・事業所等へのカード版提供方法＞

- ① 川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課  
(40rikikak@city.kawasaki.jp) あてに、以下のとおり電子メールをお送りください。  
  
【件名】 「高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ」カード希望  
【本文】 ・ 組織・部署名  
・ 担当者名  
・ 電話番号  
・ E-mailアドレス  
・ カードの使用目的（例：地域包括支援センターの研修）
- ② メール受信後、おおむね1週間以内にカード版のPDFデータをお送りします。



## II 実践編

# 2. 主な使用例の紹介

---

# <例 1> 語り合い、経験を交換する（読書会形式）

おすすめの実施形態	対面またはオンライン（対面とオンラインの組み合わせも可）
必要なもの	パターン冊子

- ① 4～6人で1つのグループを作る。
- ② 取り上げるパターンを3つ選び、代表者が読み上げる。
- ③ 「いいな」「好きだな」と思ったパターンを1人1つずつ選ぶ。
- ④ 順番に、選んだ理由や、そのパターンにまつわる感想・エピソードを話す。



## 1. 目的

- 参加者にソーシャルワークや対人援助業務に関する「学び合う仲間」をつくっていただき、自らの実践を振り返っていただくとともに、お互いから学び合ってください。
- 参加者に『高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ ～ともに未来をつくる～』の伝道師（インフルエンサー）となっただき、川崎市内外に広めていっていただく。
- 令和5年度中にVer.1への改訂作業を行うため、参加者のエピソードやVer.0.9の内容に対する意見を収集し、改訂版に反映する。

## 2. 対象者

相談支援やソーシャルワークに関する業務に従事している方（高齢者分野以外の分野に従事されている方も可）

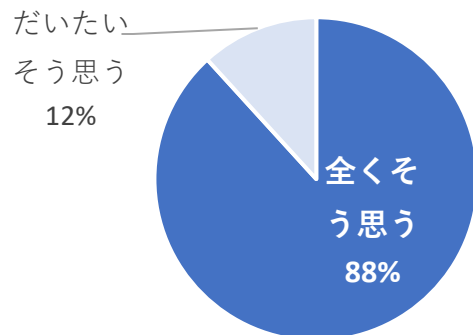
## 3. 主な内容

- 『高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ』作成の背景、パターン・ランゲージとは
- 感想・エピソードの共有（毎回3つのパターンを取り上げ、「いいな」「好きだな」と思ったパターンを1人1つ選び、選んだ理由や、そのパターンにまつわる感想・エピソードを話す。）


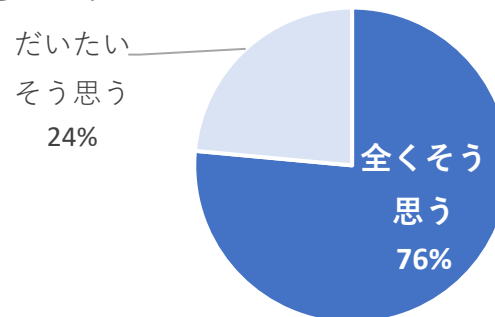
## 4. アンケート結果

※第1回～第4回のアンケート結果合計 (n=34)

Q この読書会は、ご自身の仕事に役立つと思いますか？




Q この読書会で学んだことを、ご自身の仕事で活用できると思いますか？



対人援助の各場面での向き合い方や対応、心構え、言葉の投げかけなど、わかりやすい言葉で表現されているので、相手をより深く理解するためのヒントになると感じました。

ひとつの訪問、ひとつの声かけに自分の認識と新人の認識にズレがあったのではないかと気づかされました。そのズレの原因が共通認識のツールがなかったからだと分かりました。良い行動、良いケアに名前を付けてもらえたのは目から鱗でした。

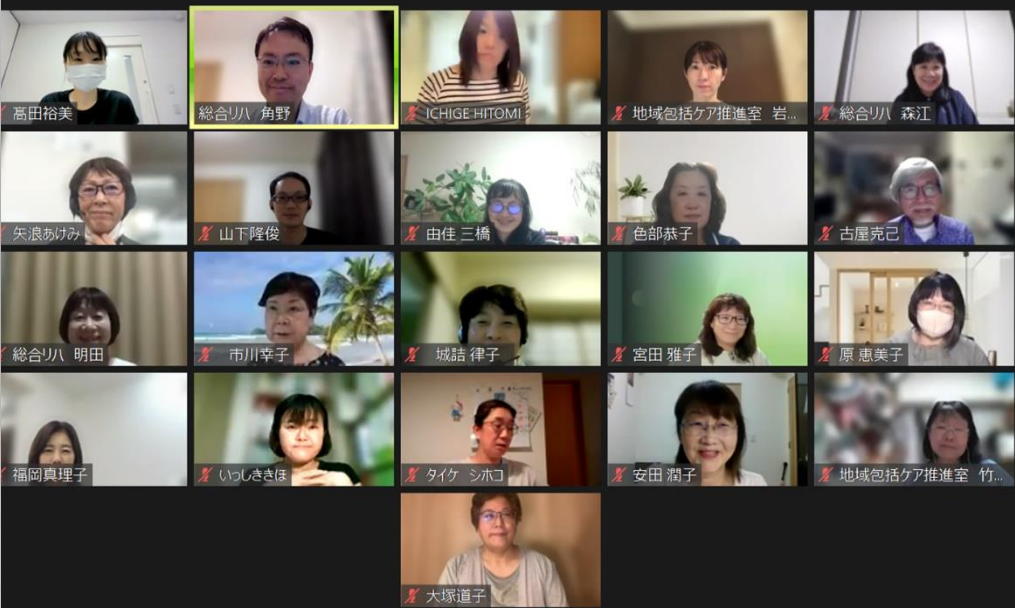
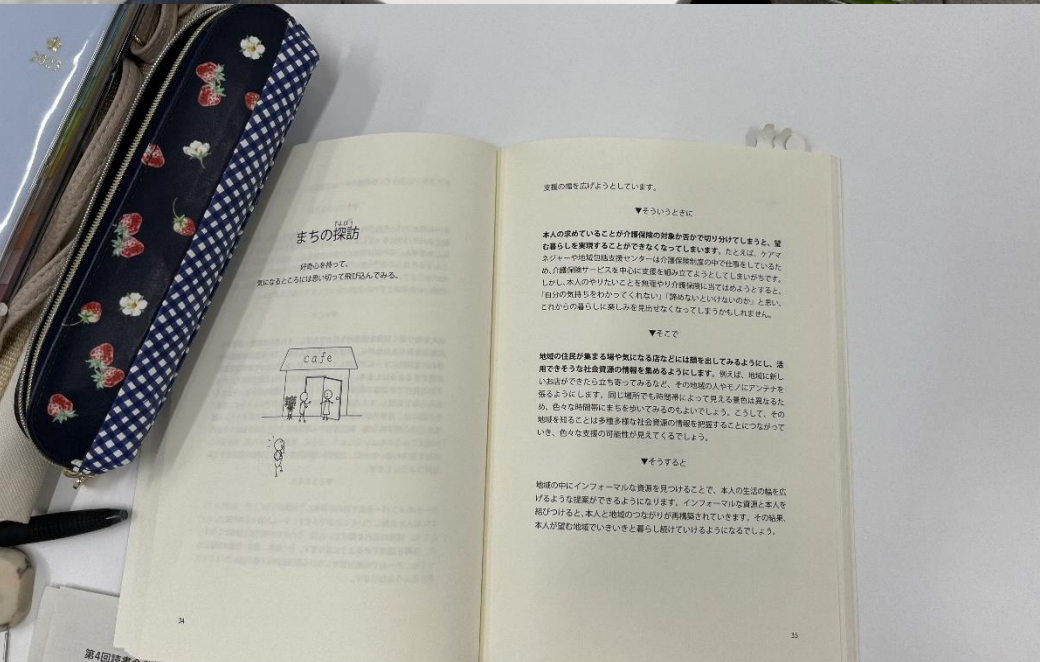


先人の経験や知恵と工夫が多くの人たちの頭や心に届くことで、その人なりの広げ方として浸透し、また新たな発見や知恵になっていくものだなと感じました。

言語化の困難な仕事です。それを少しでも和らげて、この仕事はすてきだと思っていただけることが、このテキストを通して可能だと思います。



# 読書会の様子





## <例2> 語り合い、経験を交換する（カード使用形式）

おすすめの実施形態	対面
必要なもの	パターンカード、付箋（なくても可）

### <基礎編>

- ① 4～6人で1つのグループを作る。
- ② カードをテーブルに並べる。  
※全部のカードを並べても良いし、あらかじめ選んだカードのみを並べても良い。
- ③ 各自、カードの内容を読む。
- ④ 1人1枚、「いいな」「好きだな」と思ったカードを選ぶ。  
※選んだカードは手元に持っても良いし（早い者勝ち方式）、並んでいるカードに付箋を貼っても良い（同じカードを複数の人が選ぶことができる方式）。
- ⑤ 順番に、選んだパターンを読み上げ、**選んだ理由や、そのパターンにまつわる感想・エピソード**を話す。

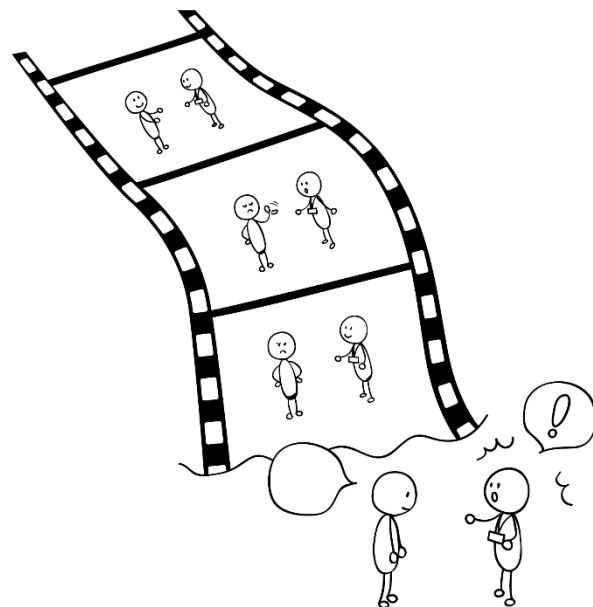


## <応用編>

- ① 1人1枚、他の人から経験談や秘訣を聞いてみたいカードを選ぶ。
- ② 順番に、自分の選んだパターンを紹介し（読み上げる）、その経験者がいるかどうかを聞く。経験者がいたら経験談や秘訣を話してもらおう。



具体的なイメージが湧くように、  
ここで再現動画をご覧ください。



# (参考) 川崎市でのカード活用例①

【研修名】 地域包括支援センター新任職員研修


【参加者】 地域包括支援センター及び区役所高齢者支援係の新任職員

仕事に関して今感じていること、つまづきかけていることを、『思い切って』話してみてください。

No.14 【心のメンテナンス】

## 思い切って話す

弱さを受け入れてもらえると、気持ちが楽になる。



仕事に行き詰っています。

▼そういうときに

直面している問題や困っていることについて、誰かに話しても自分が非難されてしまうのではないかと心配になって、苦しい想いを一人で抱え込んでしまいます。

▼そこで

信頼できる仲間に自分の悩みや失敗してしまったことなどを思い切って話してみることで、気持ちを切り替えるようにします。







# (参考) 川崎市でのカード活用例②

【研修名】 入退院支援に関する研修

【参加者】 病院の看護師・医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、地域包括支援センター職員

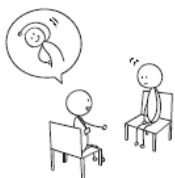
各自、入退院支援において大切だと思うパターンを1枚ずつ選び、なぜ大切だと思ったか、そのパターンにまつわるエピソードなどを順番にお話してください。

No.7

【チームで支える】

## 納得をつくる

「やったほうがいい」を「やってみたい」へ。



本人の意向を聞きながらケアプランを作成しています。

▼そういうときに

本人との関係が壊れるようなことはしたくないと考え、本人にとって必要だと思われることであっても提案をためらってしまうと、結果的に本人の自立につながらなくなってしまいかもしれません。

▼そこで

本人の意向を受け入れながらも、自立に向けて取り組んだほうがよいことについては本人の納得を得ながら取り組んでもらうようにします。

No.23

【伝わる工夫】

## 暮らしの中の医療

医療が実際の生活に溶け込むよう、お手伝いをする。



医療機関と連携しています。

▼そういうときに

医療機関のアドバイスは正しくとも、生活の場面で実行できるかどうかという視点が不足してしまうことがあり、病状が一度改善したとしても再び悪化してしまうケースもあります。

▼そこで

医療関係者の見立てと、実際の生活の場での環境や本人の意向のすり合わせを行い、安心して生活を送れるようにします。

No.24

【伝わる工夫】

## 言葉のすり合わせ

お互いの違いを認め合った先に、答えがある。



他の専門職と対話をしようとしています。

▼そういうときに

相手と自分の考えの違いに目をつむったまま進めようとする、話し合いが予期せぬ方向に行ってしまうことがあります。

▼そこで

お互いの考え方の違いを共有し認め合いながら対話を重ね、意見の相違があったときには言葉の認識を合わせることで、双方に納得がいく良い結論を導き出せるようにします。







## <例3> どんなソーシャルワーカーになるかを考える 川崎市 KAWASAKI CITY

おすすめの実施形態	対面
必要なもの	パターンカード

- ① カードをテーブルに並べる。  
※全部のカードを並べてもいいし、あらかじめ選んだカードを並べるやり方もある。
- ② 各自、カードの内容を読む。
- ③ **ソーシャルワーカー（もしくはケアマネジャー、地域包括支援センター職員、行政職員等）として、大切にしたいカードを1人1枚選ぶ。**
- ④ ワークシートに、必要な情報を書き写す。  
※カードは持って帰れないので・・・
- ⑤ **選んだカードのコツを実践するために、どんなふうに行動したいかを具体的に書いてみる。**
- ⑥ 順番に、ワークシートに書いた内容を発表する。

# ワークシート（記入例）

## ■ソーシャルワーカーとして大切にしたい「ことば」

by 「高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ」

名前：受け止めつなぐ

自分たちの担当する領域外の相談を受けました。

### ▼そのとき

どう対応していいかすぐにわからず、対応が後回しになってしまうことで、必要なタイミングで適切な支援を受けられない人が出てきてしまうかもしれません。

### ▼そこで

どんな相談でもいったん受け止め、自分のところだけで解決できなければ速やかに適切な機関につなぐことで、相談者への支援が途切れないようにします。

## ■そういうソーシャルワーカーになるために、こんなふうにしてみたい。

- どんな相談の電話が入ってもいったん受け止め、すぐにつなが先がわからなければ同僚に相談したり調べたりしてつなぐようにする。
- 市内の主な相談機関の役割を調べて、いざというときにつなげるようにしておく。
- 多職種が参加する勉強会などに積極的に参加し、様々な機関・職種と顔の見える関係を作っておく。

## <例 4> 自分の実践を振り返る

おすすめの実施形態	対面またはオンライン（対面とオンラインの組み合わせも可）
必要なもの	パターン冊子、経験チェックシート、経験チャート

- ① 経験チェックシートを用いて、それぞれのパターンについて日々自分が実践できていれば、「実践チェック」欄に「○」を書き込む。

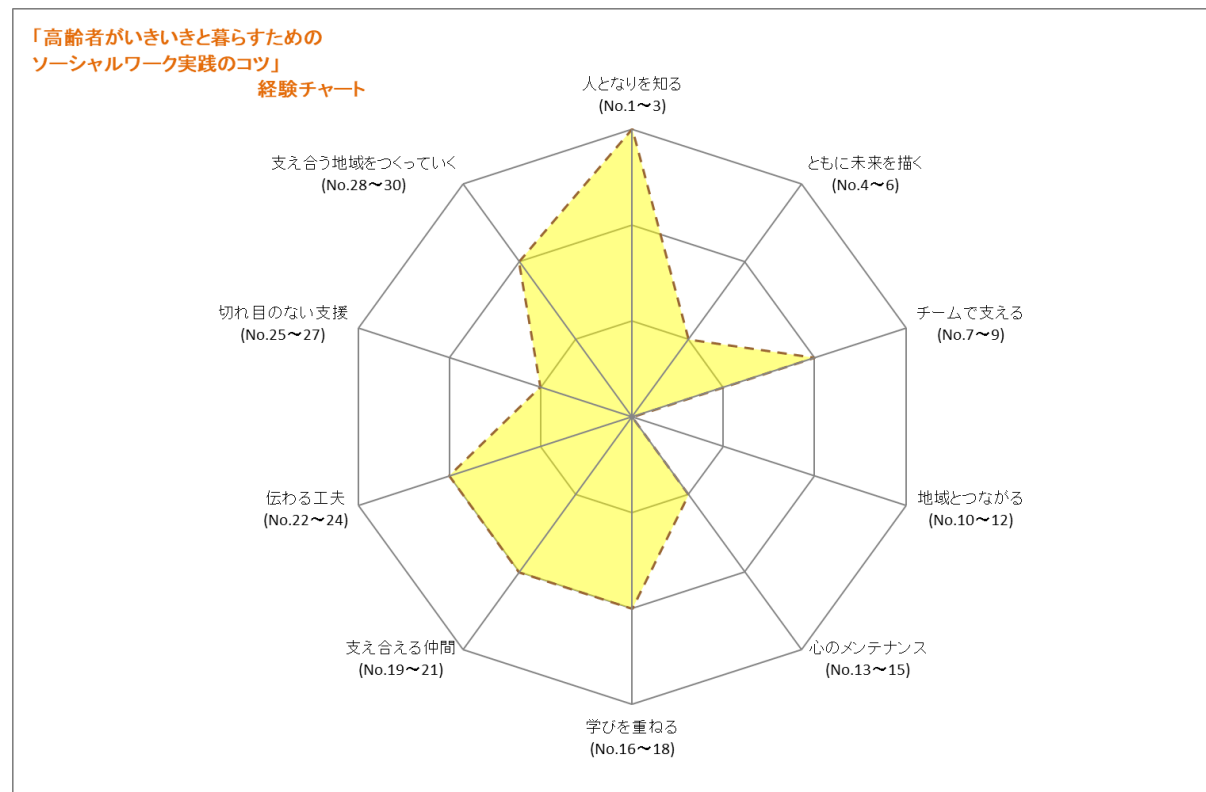
「高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ」経験チェックシート				
グループ	高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ	Solution	実践チェック ○	グループの合計ポイント 0~3
人となりを知る	1. はじめましてのメッセージ	本人に直接「これからの生活を一緒に考えていきたい」というメッセージを伝え、少しでも安心してもらえるようにすることで、よいスタートが切れるようになります。	○	
	2. 重ねてつかむタイミング	一度に全てを聞こうとするのではなく、繰り返し会い、良いタイミングを見極めていくことで、こちらの聞きたいことや本人にとって大切なことを話してもらうようになります。		
	3. 「実は・・・」のサイン	本人の言葉にできていない気持ちや発言とのギャップがないかなど、言葉以外の部分にも着目しながら本音に近づけるようになります。	○	
ともに未来を描く	4. 生きてきた日々	これまでの人生を受け止め、これからどう生きていきたいかを確認しながら、本人の想いや価値観を中心に今後の生活のイメージを一緒につくっていきます。	○	
	5. 感じている世界	本人の視点や感じている世界を想像し、同じ側に立って考えながら、本人が意欲を持って取り組みたいと思えるようなプランを作成します。		
	6. 気づきの発見	客観的な事実やデータなどを示し、本人の感じている世界を受け入れながら対話を続け、生活を見守っていく中で、自分自身で気付けるようにサポートしていきます。		

## <例4> 自分の実践を振り返る

- ② 各グループの3つのパターンのうち、○がついたものの数を「グループの合計ポイント」欄に記入する。

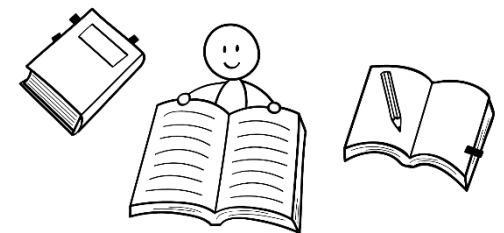
「高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ」経験チェックシート				
グループ	高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ	Solution	実践チェック ○	グループの合計ポイント 0~3
人となりを知る	1.はじめましてのメッセージ	本人に直接「これからの生活を一緒に考えていきたい」というメッセージを伝え、少しでも安心してもらえようようにすることで、よいスタートが切れるようにします。	○	2
	2.重ねてつかむタイミング	一度に全てを聞こうとするのではなく、繰り返し会い、良いタイミングを見極めていくことで、こちらの聞きたいことや本人にとって大切なことを話してもらいようにします。		
	3.「実は…」のサイン	本人の言葉にできていない気持ちや発言とのギャップがないかなど、言葉以外の部分にも着目しながら本音に近づけるようにします。	○	
ともに未来を描く	4.生きてきた日々	これまでの人生を受け止め、これからどう生きていきたいかを確認しながら、本人の想いや価値観を中心に今後の生活のイメージを一緒につくっていきます。	○	1
	5.感じている世界	本人の視点や感じている世界を想像し、同じ側に立って考えながら、本人が意欲を持って取り組みたいと思えるようなプランを作成します。		
	6.気づきの発見	客観的な事実やデータなどを示し、本人の感じている世界を受け入れながら対話を続け、生活を見守っていく中で、自分自身で気付けるようにサポートしていきます。		

- ③ 全てのパターンの実践チェックが終わり、各グループの合計ポイントが算出できたら、**その結果を実践の経験チャートの該当箇所に描き込んでみる。**グループごとに軸があるので、**その軸のメモリの0から3の中で合計ポイント数に対応するところに印をつけて（点を描いて）いく。**そして、全てのグループについて印をつけ終わったら、**それらの点をつなぎ、できた形の内側の領域に色を塗る。**





- ④ **実践領域が外側まで広く伸びているところは、多く実践している領域になる。逆に、へこんでいて狭いところは、実践していない（あるいはできていない）領域ということになる。**こうすると、「高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ」の観点で見た、現在の実践の全体像を把握することができる。
- ⑤ **その上で、へこんでいる領域を広げるにはどうしたらよいかを考える。**それぞれの軸には3つのパターンが紐づいている。つまり、そのうちのいずれかの一つを実践するようになれば、1目盛り領域が広がる。そう考えながら、**それぞれのパターンのページを読み直し、日頃意識して実践してみるようにする。**

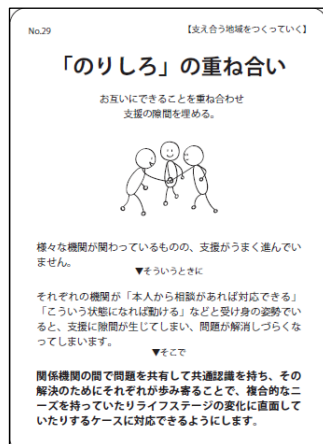


# <例5> 実際の事例を考えるときに使ってみる

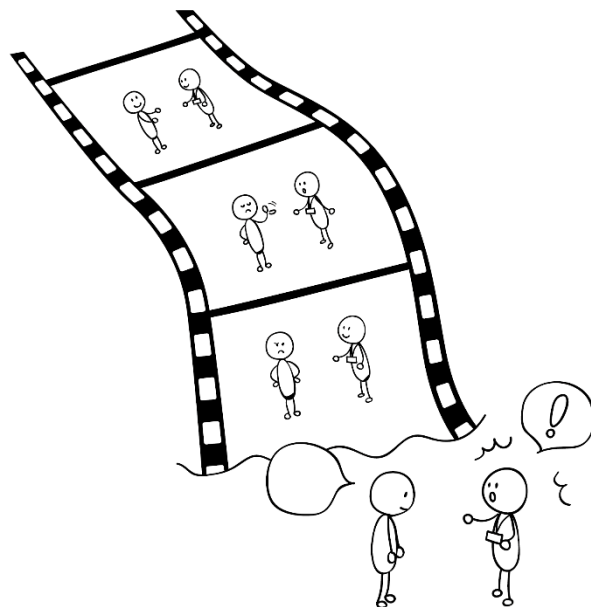
おすすめの実施形態	対面
必要なもの	パターン冊子又はパターンカード

個別ケア会議や事例検討会などの場で、支援を振り返ったり、これからの支援を考えるときにパターンを使って話し合ってみる。

※パターンを使うと、経験年数や職位に関わらず意見が言いやすくなる。



具体的なイメージが湧くように、  
ここで再現動画をご覧ください。



今回ご紹介した使い方は、あくまで一例です。  
使い方に決まりはないので、ぜひ色々な使い方を試してみてください。

そして、新たな使い方を編み出したら、ぜひ私たちにも教えていただけると嬉しいです(^^)



『高齢者がいきいきと暮らすためのソーシャルワーク実践のコツ』を  
ぜひ川崎市以外の地域でもご活用いただけると嬉しいです(^^) /

活用方法などお気軽に下記までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課  
〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 川崎市複合福祉センターふくふく2階  
TEL/044-223-6953  
FAX/044-200-3974  
E-mail/40rikikak@city.kawasaki.jp

